

令和 6 年 度  
運 営 に 関 す る 計 画  
最終評価



大阪市立北鶴橋小学校  
令和 6 年 2 月

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題****【安全・安心な教育の推進】****基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現**

- ・ 月1回に生活指導連絡会兼いじめ・不登校対策委員会をもとに重篤ないじめ案件の起こりにくい環境を作り上げるための「予防的生活指導」を行ってきた結果、いじめ案件について見つけ出しやすい環境、児童が話しやすい環境ができ、その対応についても組織的に行う素地ができてきている。その結果、現在、新しい基準によるいじめ案件は出ているもののすべてを解決に向けることができ、重篤ないじめ事案が起きにくい学校とすることができている。

**基本的な方向2 豊かな心の育成**

- ・ 「いいところ見つけ」週間など、互いに認め合う活動について重点的に取り組んできた結果、「人の役に立つ人間になりたい」「友だちのいいところを見つけられる」といった児童が育ってきている。一方で、成功体験が少ないせいか「自己肯定感」の低い児童もみられる。今後は、自分に自信を持ち「自己肯定感」を高める取り組みについても積極的に行っていくこと必要となっている。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】****基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上**

- ・ 習熟度別少人数学習や放課後支援、タブレットドリルの活用を通して、算数科の学力向上を重点的に取り組んできた結果、基礎・基本の学力の向上につなげることができ、経年調査において全市のほぼ平均にまで引き上げることができた。しかしながら「活用」についてや国語力についてはまだまだ課題が多く、その課題の原因の一つに「認知力」があると考え、令和3年度より「コグトレ」に取り組んでいる。

**基本的な方向5 体力・運動能力向上のための取組の推進**

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策による体力の低下は喫緊の課題である。感染症対策がまだまだ必要な時期が続くような現状を踏まえた取り組みの充実が必要となっている。

**【学びを支える教育環境の充実】****基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進**

- ・ ICTを活用した授業デザインをしやすい教室環境は整ってきた。また、令和3年の取り組みによりICTを活用した授業デザインに関する年間指導計画も作成できている。Microsoft Showcase Schoolに認定されるなど先進的な取り組みを行ってきた。日々めまぐるしく変化していく社会環境に対応しながら、授業デザインについて研修を重ねていき、これからのSociety5.0を生き抜く児童をはぐくんでいくことが必要である。

**基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり**

- ・ 校務支援システムの活用や会議・行事の精選により、全教職員が基準を働き方改革に関する条件を満たすことができている。ゆとりを持ちながら質の高い教育につなげていけるようにPDCAサイクルによる計画が必要。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現

- ・ 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を 90%以上にする。
- ・ 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。

#### 基本的な方向 2 豊かな心の育成

- ・ 令和 7 年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 96%以上にする
- ・ 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「自分には、良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 77%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上

- ・ 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査における平均正答率の対全国比を 1 以上にする。

#### 基本的な方向 5 体力・運動能力向上のための取組の推進

- ・ 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の全国比を 1 以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- ・ 授業日において学習者用端末を毎日使用した学校の割合を 100%にする。

#### 基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

「学校園における働き方改革推進プラン」における教員の勤務時間の上限（時間外勤務月 45 時間以内）に関する基準を満たす教職員の割合を 100%にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標（小・中学校）

##### ○基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を85%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

#### 学校園の年度目標

##### ○基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現

- ・ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を85%以上にする。

##### ○基本的な方向2 豊かな心の育成

- ・ 年度末の校内調査における「自分には、よいところがありますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

##### ○基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

- ・ 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント上昇させる。

##### ○基本的な方向5 健やかな体の育成

- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間に起きていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

#### 学校園の年度目標

##### ○基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

- ・ 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント上昇させる。

##### ○基本的な方向5 健やかな体の育成

- ・ 校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。
- ・ 校内調査の「決まった時間に寝ることができた」において肯定的な回答をする児童の割合を、80%以上にする。

## 【学びを支える教育環境の充実】

### 全市共通目標（小・中学校）

#### ○基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- ・ 授業日において、児童生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕

#### ○基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- ・ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 90%以上にする。

### 学校園の年度目標

#### ○基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- ・ 授業日において、児童生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕

#### ○基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- ・ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 100%にする。

## 【その他】

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】について

生活指導連絡会兼いじめ・不登校対策委員会において情報共有を行い、新しいいじめの定義に基づき学校全体でチームとして対応していくことができていた。しかしながら、自分事としてとらえるとまだまだできていないととらえている児童もあり、継続して指導を行っていく必要があり、道徳の時間を要としながら児童とともに考える時間を定期的にとることが必要である。

また、課題として挙げている「自尊感情の育成」においては、年間2回の「いいところ見つけ週間」の実施など、学校全体での取り組みを行ってきたことが自尊感情の向上につながってきており、今後は保護者への啓発活動も含め、学校だけでなく家庭や地域とも連携を取りながら、児童の自尊感情を育んでいきたい。

#### 【最重要目標2 未来を切り開く学力・体力の向上】について

週1回のコグトレタイムなど、コグトレ実践は学びの意欲の向上につながってきており、学びの基盤ができつつある。本年度より国語力の向上に取り組み、週1回の朝学習でのナビマ、週2回のお昼の北鶴タイムの設定による基礎学力の向上に取り組んだり、デジタル新聞を活用した読解問題を取り入れたりしたことや、授業研究やがんばる先生研究支援事業を活用した校内研修の充実により、教員の授業力の向上に努めたこともあり、標準学力調査や大阪市学力経年調査において大阪市平均を上回ることができた。

また、本年度より、体育専科を取り入れたことにより、体育学習の充実が図られたことに加えて、なわとびタイムやかけ足タイムなどの取り組みも充実してきたことにより、体を動かすことを気持ちよいと感じられる児童が育ってきた。

学力や体力の育成を支える生活習慣として、「睡眠時間の確保」についての意識づけについて継続的におこなったことにより、多くの児童が意識しながら生活を送れるようになってきたが、家庭状況等によりなかなか生活習慣が身につかない児童もあり、今後も意識しながら保護者への啓発活動を行っていくことが必要だと感じた。

#### 【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】について

校内研究・研修での取り組みを通して、授業の中で効果的に ICT 機器を活用する機会が日常的になってきている。また、年間指導計画や目標の設定などの様々な取り組みを通して、児童は非常に高い活用スキルを習得している。

教務主任を中心に校務支援システムを活用した校務のデジタル化が進み、平均時間外勤務時間を大阪市の約半分にし、それを維持し続けることができています。SSS の常駐化や会議の精選・オンデマンド化により一人一人がワークトライアージやタイムマネジメントを行うことにより、「学校園における働き方改革」も進み、教職員がチームとしてゆとりを持った教育を行える学校づくりが進んでいる。その結果、外部へ研究会への参加や校内研修の充実など、本来最優先されるべき業務時間を充実させることができてきた。

(様式2)

## 大阪府立 北鶴橋小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を85%以上にする。</li> </ul> <p>○基本的な方向2 豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の校内調査における「自分には、良いところがありますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。</li> </ul> <p>学校の年度目標</p> <p>○基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を85%以上にする。</li> </ul> <p>○基本的な方向2 豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の校内調査における「自分には、良いところがありますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。</li> </ul>	3.2

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>毎学期いじめについて考える日を設定し、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと感じる機会を持つ。</p>	3.1
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートで「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目で「思う」に回答する割合を85%以上になるようにする。</li> <li>いじめについて考える日を毎学期設定し、各教室で話し合う時間を設ける。</li> </ul>	
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>友だちのよいところや自分のがんばりを見つけて発表する場を設けたり、「よいところ見つけ」の強調週間を設けたりして、友だちからの声をもとに自分のよいところについて振り返られるようにする。</p>	3.2
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートで「自分のよいところがありますか」の項目で「とても」「だいたい」と答える児童が80%以上になるようにする。</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いいところ見つけ週間を年2回設ける。</li> </ul>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><b>取り組み内容①</b></p> <p>1月実施の学校評価アンケート（児童）の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「2. いじめは、どんなことがあっても、してはならないと思いますか。」の項目で、とても90.0%・だいたい9.1%・ぜんぜん0.9%という結果になった。</li> <li>・ 9月実施のアンケート結果と比較すると とても90.0%(↓-6.3) ・だいたい9.1%(↑+5.4) ・ぜんぜん0.9%(↑+0.9)</li> <li>・ 数値から読み取ると、9月実施アンケートより集計結果が悪くなっている。とても以外を答えた児童には、答えの意図が明確になるように聞き取りを実施し指導する。</li> <li>・ いじめは、ぜったいに許されないことだという認識をもち、引き続き指導を徹底していく。</li> </ul> <p><b>取り組み内容②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童アンケートで「自分のよいところがわかりますか」の項目で「とても」「だいたい」と答えた児童が80%であった。</li> </ul> <p>いいところ見つけ週間を年2回実施し、自分のよいところを振り返る時間を設けた。</p>	
次年度への改善点	
<p><b>取り組み内容①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容を理解して「ぜんぜん」と入力した児童は、担任と話をする中で「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と理解していることが分かった。しかし、この1年を振り返ってみると、やはり自分は人を傷つけてしまう発言や行動をしていた。もしくは、していたかもしれない。とのことだった。</li> <li>・ いじめについて考える日以外にも、学級の実態に合わせて道徳の時間など利用し、児童と共に考える時間を設ける。いじめは、どんなことがあっても、してはならないことの指導を継続していく。</li> <li>・ 「いじめ」に対する定義について、教員も含めてしっかりと意識し、可視化させないようにしていかなければならない。そして、「重篤ないじめ」への芽をつんでいくようにする。</li> </ul> <p>※ 近年は、スマートフォンを所持している児童もどんどん増えてきている。このような時代の中でSNSなどを使い文章で人を傷つける事案も多くある。今後も、教員がいじめは絶対に許されないことである。ということを見聞に伝え続けていかなければならない。</p> <p>※ 各担任による事後の聞き取り結果、入力ミスが8名もいた。記入の仕方について事前に説明する必要がある。</p> <p><b>取組内容②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続して取り組みを行う。次年度もいいところ見つけ週間を実施し、友だちからの声をもとに自分のよいところについて振り返られるようにする。</li> </ul> <p>「自分のいいところみつけ」や保護者への啓発も行っていく</p>	



## 大阪市内 北鶴橋小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り開く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント上昇させる。</li> </ul> <p>○基本的な方向 5 健やかな体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 85%以上にする。</li> <li>年度末の校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間に起きていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。</li> </ul> <p>学校の年度目標</p> <p>○基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント上昇させる。</li> </ul> <p>○基本的な方向 5 健やかな体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を 85%以上にする。</li> <li>校内調査の「決まった時間に寝ることができた」において肯定的な回答をする児童の割合を、それぞれ 80%以上にする。</li> </ul>	3.2

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>国語科を中心に基礎学力の定着を図り、教職員が連携して、一人一人の学力を向上させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>週に 1 回以上コグトレを行い、年度当初と中間、年度末にアセスメントをとり実態を把握する。</li> <li>ナビマを活用し、児童の基礎的な言語力(ひらがな、カタカナ、漢字の読み書き)を高める。1 年生はひらがな、2 年生はひらがなとカタカナの習得状況を把握し、習得率の向上を目指す。3 年生以上は週に 1 回以上、朝学習の時間などを活用してナビマ(国語科)に取り組む。</li> </ul>	3.2

<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学習状況を把握し、「大阪市学力経年調査」の国語科で標準化得点を 100 以上とする。</li> <li>・「大阪市小学校学力経年調査」の対象外である 1，2 年生は国語科の「標準学力調査」を実施し、児童一人一人の学力を把握・分析し、学習指導に生かす。</li> </ul>	
<b>取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</b> 児童が進んで運動活動に取り組めるように、運動環境を整える。 （学習カード、運動週間、体育科とコグトレとの連携等）	
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1 日のうち 3 分～5 分間のなわとびタイムを設定し、運動の継続に取り組む。</li> <li>・学習カード（なわとびカードやかけ足カード）を配付し、自ら目標をもって運動に取り組めるようにする。</li> <li>・児童のアンケートにおける「外で元気に遊んでいますか」「体を動かすのが好きですか」の項目について「とても」「だいたい」と肯定的に答える児童の割合を 85 % 以上にする。</li> </ul>	3.2
<b>取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</b> 食育や保健指導、強調週間の設定を通して基本的な生活習慣を身に付けられるようにする。	
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の健康観察時に確認する「朝ごはんを食べた」の項目で「はい」と答える児童の割合を 80 % 以上にする。</li> <li>・睡眠に着目し、学校アンケートの「きまった時間に寝ることができていますか」の項目で「とても」「だいたい」と答える児童の割合を〇〇%以上にする。</li> </ul>	3.3
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<b>取組内容①</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週に 1 回コグトレタイムに取り組み、年度当初と中間、年度末にアセスメントを取った。4 月と 2 月のアセスメントを比較すると、全学年が平均得点を上げた。また、教職員アンケートからコグトレの継続に 100 % の肯定的な意見を得た。</li> <li>・週に 1 回、朝学習の時間を活用して、国語科のナビマに全学年で取り組んだ。また今年度から週に 2 回北鶴タイムを設定し、国語科の基礎学力の向上に努めた。後期から 3 年生以上は、朝日小学生新聞「天声子ども語読解クイズ」にも取り組み、読解力の向上に努めた。</li> <li>・「大阪市学力経年調査」の国語科で標準化得点を 100 以上とすると指標を設定したところ、学校全体としては達成することができた。5 年生に関しては指標を若干下回ったものの、説明文の読み取りや文章を書くことに関する項目は昨年度よりも伸びた。</li> <li>・2 年生は国語科の「標準学力調査」を実施した。1 年生は全国正答率を下回ったが、2 年生は超えることができた。今後も児童一人一人の学力を把握し、学習指導に生かす。</li> </ul> <b>取組内容②</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとびタイムは、プール期間やその他の行事があるときを除いて、継続して取り組めた。学級で大縄跳びをするなどの変化も見られた。また、かけ足カードを使ったかけ足タイムにも目標をもって取り組む児童が多い。この継続が、運動をする機会の確保にもつながった。</li> </ul>	

- ・ 教員間で活動時間の確保に努めることを共有し、実行したことで、児童もなわとびタイムまでに運動場や中庭に出る習慣がついてきた。
- ・ 児童アンケートにおける「外で元気に遊んでいますか」の項目で「とても」「だいたい」と答えた児童は80.9%、「体を動かすのが好きですか」の項目で「とても」「だいたい」と答えた児童は90.0%であった。体を動かすことが好きな児童が多いにもかかわらず、遊んでいる児童の割合が低くなっている。
- ・ 運動委員会を中心に運動週間を実施し、外に出て遊んだり、活動したりしようという呼びかけを行うことができた。期間中の参加率を高めることはできたが、それを継続させていく手立てが必要である

### 取組内容③

- ・ 「きまった時間に寝ることができていますか」の項目で「とても」「だいたい」と答える児童の割合は83.6%だった。毎日の健康観察や、日々の声掛けを行うことで、決まった時間に寝る意識は高まっている。
- ・ 家庭の事情や生活習慣などによりできない児童が固定されているため、それぞれの環境に応じた個別指導が必要。
- ・ アンケート結果から、きまった時間に寝ることができていない児童とスマホ・ケータイ・ゲームなどの使用時間を決めていない児童がほぼ連動していることがわかった。

### 次年度への改善点

### 取組内容①

- ・ 説明文の教材研究を丁寧に行ったり、北鶴タイムで文章の読解を繰り返し行ったりしたことで、「大阪市学力経年調査」において学校全体として説明文の読み取りの正答率が向上した。しかし、漢字の読み書きは、学年が上がるにつれて大阪市平均を下回る部分があった。特に漢字の書く問題では正答率が極端に低くなっていた。文字を正しく読み書きする力などの基本的な学力を定着する取り組みを今後も工夫して行う。
- ・ 日常のノート、作文などを書くときに既習漢字は使うことを日々指導していく。
- ・ 新出漢字の指導を丁寧に行う。
- ・ 書写の時間を充実させ、字を丁寧に書くことを定着させる。

### 取組内容②

- ・ なわとびタイムや、委員会主導の運動週間を継続して取り組む。  
→なわとびタイムの中に、ペア学年での「大縄タイム」を入れてみる  
→ペア学年遊びの時間を設ける など
- ・ 自分のなわとびを持ってくることを徹底し、なわとびを継続することの良さを知らせる取り組みを行えるとよい。
- ・ 遊びを知らせるような手立てを考える。

### 取組内容③

- ・ 引き続き、睡眠の大切さについて、児童それぞれの発達段階に応じて学習する機会を設け、就寝時間の遅い児童を中心に、声掛けの機会を増やす。
- ・ 保健日より、元気っこ週間、ホームページ等での啓発を継続し、家庭との連携を図る。
- ・ スマホ・ケータイ・ゲームなどの使用時間についても、声掛けをしていく。
- ・ 学級と連携して、児童の決まった時間に寝る意欲が高まるよう取り組む。
- ・

## 大阪市内 北鶴橋小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業日において、児童生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕</li> </ul> <p>○基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 90%以上にする。</li> <li>.</li> </ul> <p>学校の年度目標</p> <p>○基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業日において、児童生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕</li> </ul> <p>○基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 100%にする。</li> <li>.</li> </ul>	3.6

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <p>ICT 機器を活用した授業研究を行い、教員の活用スキルを高める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>ICT 機器を活用した授業研究会を年 6 回以上行う。</p>	3.7
<p>取組内容②【基本的な方向 7 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <p>協働学習支援ツール等の活用実技研修を開催し、教員の活用スキルを高める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>協働学習支援ツール等の活用研修を年 6 回以上行う。</p>	3.4

<div>取組内容③【基本的な方向 8 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</div> <div>終業 17 時 30 分までに全員が退勤する「定時退勤の日」を設け、働き方改革を推進する。グループを活用することで校務の負担の偏りを緩和させる。</div> <div>指標</div> <div>「定時退勤の日」を月 1 日設定する。</div> <div>月の時間外勤務時間が 30 時間を超えないようにする。</div>	3.7
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<div>取組内容①</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>ICT 機器を活用した授業の実践報告は、全学年行った。</li><li>ICT 機器を活用した授業についてのアンケートの結果、指導者の活用頻度はほぼ毎日使用しているという回答が 100%であった。これは担任だけではなく、教科専科も含んだ回答であり、指導の一助となる教材として、また協働学習を行う手立てとして ICT を取り入れることができていた。(Teams、PowerPoint、動画、写真撮影など)</li></ul></div> <div>取組内容②</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>協働学習支援ツールの活用研修を 6 回実施することができた。</li><li>アンケートの結果から、研修に参加していても実際に使用する際に操作を忘れてしまうことがあり、活用するまでに至らないことがあるという意見があった。また、どの授業でどんな ICT の活用が有効なのかわからないという意見もあった。</li></ul></div> <div>取組内容③</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>「定時退勤の日」を月に 2 日ほど設定することができ、終業 17 時 30 分までに全員が退勤することができている。1 月まで、月の時間外勤務時間が 30 時間を超える教職員はいなかった。SSS は、以前より活用ができていたが、仕事が一時期に偏ってしまうときがある。児童の放課後指導や学校行事等の準備など、これからも計画的に分担して行っていく。また、会議等を精選して行っているため、連絡事項を徹底する必要がある。</li></ul></div>	
次年度への改善点	
<div>取組内容①</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>メンター研修を兼ねた協働学習支援ツールを使用した授業の報告会を行う。</li></ul></div> <div>取組内容②</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>授業で実践可能な協働学習支援ツールの活用研修を繰り返し行うことで、指導者の ICT 機器活用の定着を図る。</li><li>15 分ほどの簡単な操作手順研修を定期的に行う</li></ul></div> <div>取組内容③</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>休憩時間を確保する</li><li>SSS を有効的に活用する</li><li>連絡事項を徹底する</li><li>行事の案件については、行事終了後に反省をもとにして修正案を作成しておく。</li><li>.</li></ul></div>	